

日本語教育実習～中国・広西大学/広西師範大学～

熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科 3年 原野陽子

<実習の目的>

「日本語教育演習」という演習で学んできた知識を実践し、日本語の授業を行う。

<実習先と実習先の紹介>

- ・広西大学（広西壮族自治区 南寧市）
- ・広西師範大学（広西壮族自治区 桂林市）

※今回、私は実習先として中国を選択したが、中国のほかにも韓国の祥明大学校や、タイのワライラック大学などがある。

<広西大学>

南寧とベトナムの首都ハノイはとても近い。距離でいうと 330 km程で、鹿児島から広島までくらいの距離にある。そのため広西大学では留学生の大半をベトナム人が占めていたり、南寧のデパートでは、ベトナム人の女性が働いていたりする。また、学生数は約 2 万人で、学生や教師、定年を迎えた教師も大学内に住んでいるため、大学内に郵便局や銀行、スーパー、携帯ショップ、園芸用品店まであり、大学自体が一つの街のようであった。



（左の写真：学校がとても広いので、教室移動には電動バイクや自転車、学内用バスで。中央：広西大学の総合ビルで、パソコン室などが入っている。右：学内にある園芸用品店。）

<広西師範大学>

桂林はご存知の方も多いかもしれない。岩山が林立する、自然豊かな観光地だ。広西師範大学は、そんな場所にある。授業中、自分の街を誇らしげに紹介する姿が、とても印象的で、また羨ましく思った。



（左：漓江という川。舟から見る風景全てが山水画のよう。中央：風景だけでなく、水

もきれい。右：手作りの大学案内を作って、歓迎してくれた。)

<実習で得たもの>

実習をして一番収穫として大きかったことは、今まで演習で習ってきた知識を、自らの経験として納得し、活用できるようになったことだ。「収穫として大きかったこと」と書いたが、実際はとてもショックだったことの一つだ。実習で失敗したことの大半は、演習ですでに学んでいたり、事前に注意を受けたりしていたことだった。具体的に失敗した内容というのは、学習者の発言を増やすために、教師は発言をできるだけ少なくしなければならないのだが、実習をしてみると喋りすぎてしまった。なぜ、喋りすぎてはいけないと解っていたのにできなかったのかと考えてみると、自分の実習をするのに一生懸命過ぎたからだと思う。自分の実習を先に進めるための質問をして、学習者から答えを引き出そうとしたり、その答えが出てこないと自分で答えを言ったりして、授業を先へ先へと進めてしまっていた。結果、喋りすぎたし、あの授業は学習者のためではなく、実習をする私のための授業になっていた。実習で失敗したことで、今まで演習で習ってきた知識を、経験として納得し活用できるようになったことは、私の中で大きな収穫であったし、「学習者のために」という、日本語教師としての責任も感じる事ができた。

そして、あと一つとても嬉しかったことがある。日本語を学ぶたくさんの学習者に囲まれ、日本語教師として必要とされる喜びを感じられたことだ。中国の学生は、学習に大変積極的で、真剣に授業に臨んでくれる姿がとても嬉しかった。これから、日本語教育を学び、日本語教師を目指すに当たって、大きな原動力となることだろう。



(広西大学の2年生と、学生からのプレゼントの手袋をした実習生3名。)